

山倉・大角の「小さな拠点」づくりに向けて

平成 27 年 3 月

山倉・大角住民自治協議会

小さな拠点検討委員会

今年度、山倉・大角住民自治協議会では、国土交通省「小さな拠点」づくりモニター調査地域として、これからの地域での暮らしを支える「小さな拠点」を検討してきました。「小さな拠点」とは、正式な定義はありませんが、山倉・大角では、地域の中でみんなで気軽に集まれて、おしゃべりできる場、自然と顔を合わせることができて、楽しく健康になれる場、と捉えて進めてきました。

かつてはこの地域にもたくさんの商店が並び、買い物をはじめとした生活サービスを受けることができ、地域を歩いているだけで、住民同士顔を合わせることができました。全国的な過疎化・少子高齢化を受け、商店は少なくなってしまった現在、行けば何でも揃うような「大きな拠点」を再びつくることは難しいでしょう。また、これまで通りの市街地に集中した交通サービス、行政サービス、生活サービスでは、高齢化を迎える中では、暮らしを支えていくのも困難が予想されます。

そこで、地域の中に、みんなが集まれて、時には買い物ができたり、時には健康相談が受けられたり、時には料理教室に参加できたり、そんな場所があったら安心して暮らせるのではないかと、実験イベントを行いました。その中で、皆さんからご要望の大きかった介護予防プログラムを中心に、少しずつ「小さな拠点」づくりを進めていきたいと考えています。この春には介護保険法が改正され、ますます地域でのお互いの見守り合いが重要となってきます。とは言っても、かじこまって進めていってもなかなか続かないものです。介護予防プログラム「テイクテン!」を定期的に開催しながら、生け花教室や料理教室、また食事会や移動販売等を連動させていくことで、みんなで楽しみながら、集まれる場をつくっていければと思います。

ご意見・ご要望等ありましたら、いつでも山倉・大角住民自治協議会にお声がけください。皆さんと一緒に、少しずつ地域を支える場をつくっていきたいと考えております。

「小さな拠点」づくりプラン：少しずつ色々なものを掛け合わせて、小さな団子から大きな団子へ



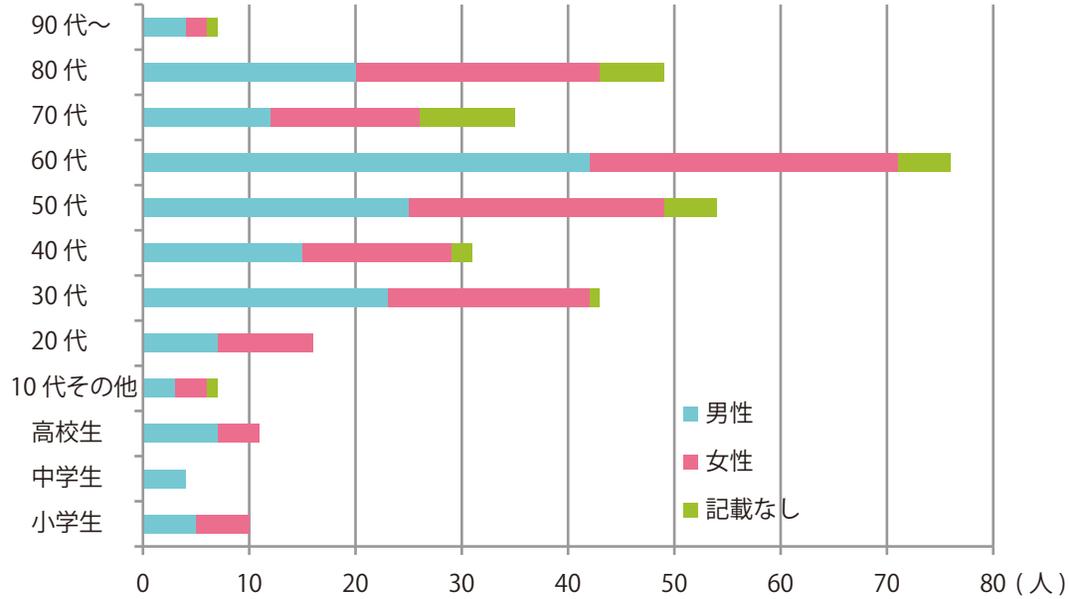
■ これからの地域を考える ～アンケート調査結果から～

平成 26 年 11 月に実施しました「山倉・大角の暮らしに関するアンケート調査」の結果と、そこからわかる地域の実態・課題を整理しました。これからの地域での暮らしを考える一つの機会になればと考えています。

【回答者】

139 世帯、343 人の方に回答いただきました。回答率は下記の通りです。
 139 世帯／全 536 世帯 ⇒ 25.9%
 343 人／全 1,607 人 ⇒ 21.3%
 回答した世帯の 1 世帯あたりの平均人数は 2.46 人(343 人／139 世帯)で、地区全体の平均 2.99 人(1,607 人／343 世帯)よりやや低い値となりました。単身もしくは夫婦 2 人世帯の回答が多いアンケートとなりました。

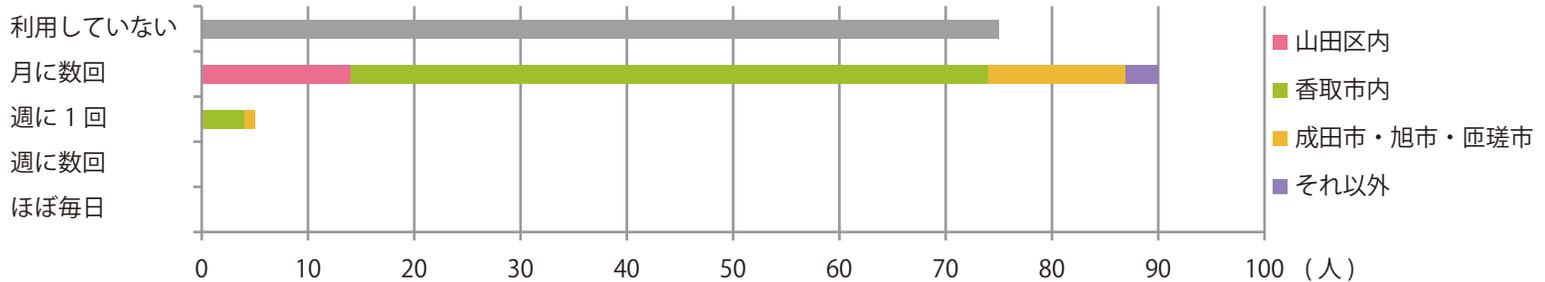
①回答者の年代・性別の構成



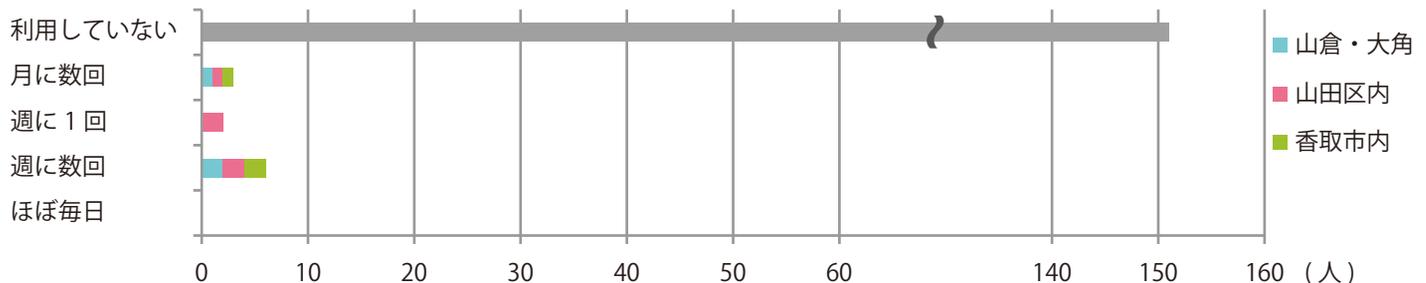
【医療・福祉サービス①】

60 歳以上の方には、現在利用している医療・福祉サービスに関して回答をいただきました。定期的に通院されている方は多いですが、デイサービスやホームヘルパー等のサービスを受けている方はわずかでした。まだそうしたサービスのニーズがないということですが、一方で現在利用できるサービスが限られておりニーズに合っていない状況とも考えられます。いずれ必要となるそうしたサービスを地域内でどう生み出していくか、あるいは補完していくか、考えていく必要があります。

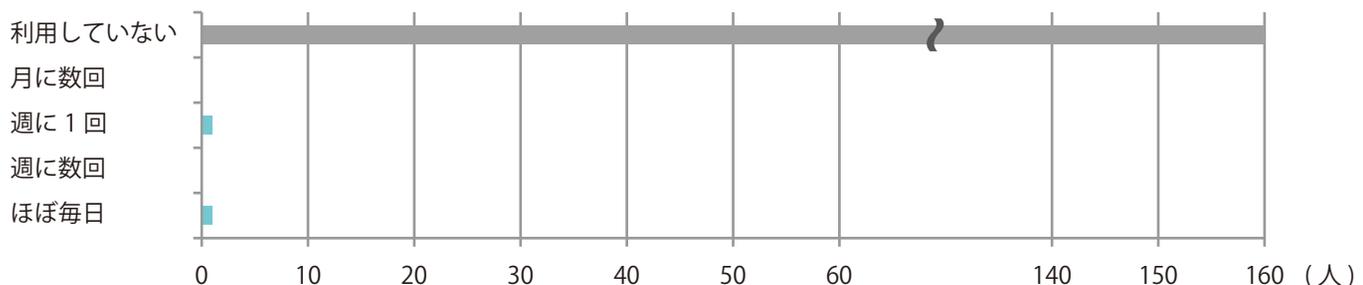
②医療機関における通院・受診等のサービスの利用頻度と場所



③デイサービス等の通い系介護サービスの利用頻度と場所



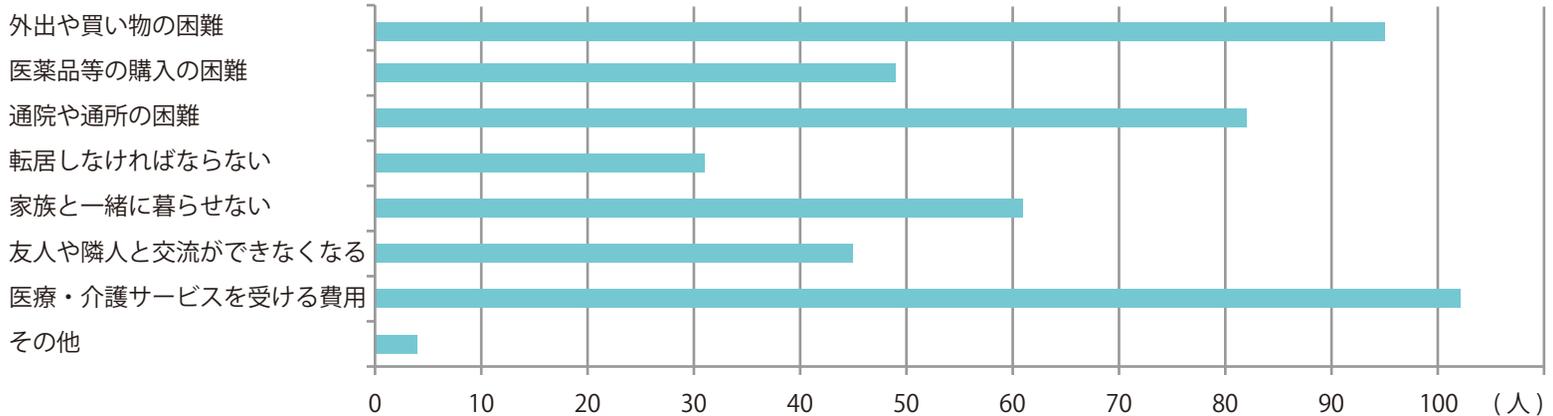
④ホームヘルパー等の訪問系介護サービスの利用頻度と場所



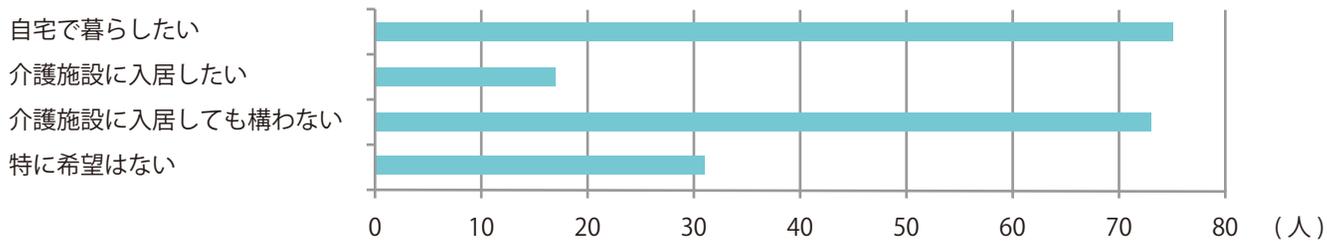
【医療・福祉サービス②】

60歳以上の方には、将来の医療・介護サービスへの不安や、居住に関してもお尋ねしました。医療・介護サービスを受けるための費用への不安が最も多く、サービスのあり方自体が問われる結果となりました。介護保険の改正もありますし、地域での見守り体制を強化し、できるだけ費用を抑えて介護予防に取り組んでいく必要があると考えられます。一方で、介護が必要になっても山倉・大角地域に住み続けたい、介護施設に入るのであれば住み慣れた地域の近くがよいという方がたくさんいます。こうした愛着を持った地域にできるだけ住み続けられる環境を、考えていく必要があります。また、買い物や通院といった移動への不安も多く見られます。まさに「小さな拠点」につながる話で、移動手段をどう確保するかと同時に、歩いて行ける範囲にどうサービスの場をつくるかが重要となってきます。

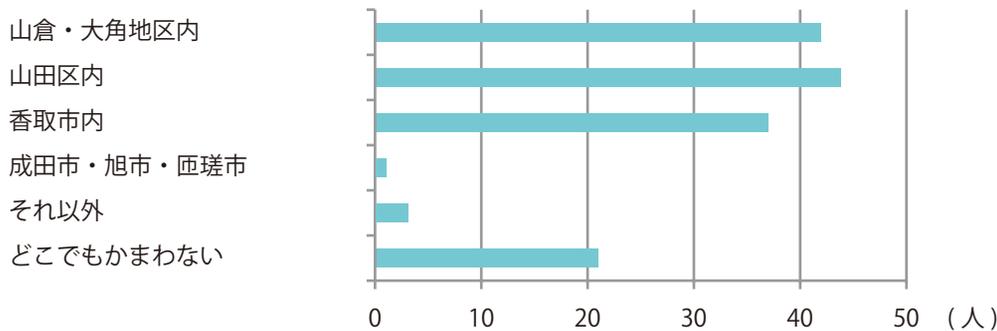
⑤介護や医療が必要になった場合の懸念事項



⑥介護や医療が必要になった場合への介護施設への入居



⑦介護施設に入居する場合の希望する地域



【小学生・中学生・高校生】

18歳以下の方には、平日放課後の過ごし方に関してお尋ねしました。下記に、平均的な頻度・場所を目的別に整理しています。小学生は、家族の送迎で地域を離れて習い事をしている傾向があります。中学生、高校生は部活が主になりますが、中学生は自転車で山田区内の移動となり、高校生は全世代を通して唯一、公共交通を使っている世代と言えます。習い事のない日は家で過ごしている方が多く、「小さな拠点」としては、小学生が地域で過ごせる場を少しずつ作っていかねばと考えています。

⑧平日放課後の過ごし方／頻度、場所、交通手段

	外に遊びに行く	部活・習い事 学習系	部活・習い事 芸術系	部活・習い事 スポーツ系	主な移動手段
小学生	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	車(送迎)
中学生	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	自転車
高校生	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	学・区・市・外	自転車・公共交通



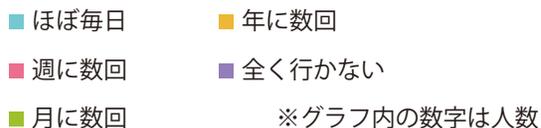
場所/学：山倉・大角小学校区内 区：山田区内 市：香取市内 外：香取市外

【日常の外出】

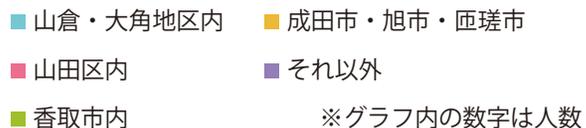
19～59歳、60歳以上でそれぞれ、普段の外出に関してお尋ねしました。どの項目も、60歳以下の頻度が高い結果となりました。毎日仕事で外出している方は、仕事の帰りや途中で様々な用事を済ませることができるので、当然の結果と言えますが、一方で【場所】のグラフを見てみると、60歳以下の方が、山倉・大角地区内で用事を済ませていることが分かります。高齢になるにつれて、外出頻度が少なくなる、自動車の運転ができなくなるからといって、地域内での利用が増えるわけではない、ということです。地域外の病院まで行った際に、まとめて買い物をしてくる、ということもありますが、車を運転しない方にとっては、山倉・大角地域内ではこま目に動く手段がないとも考えられます。これから高齢化が進んで行く中で、地域内での移動が難しく、必要なサービスまでたどり着かない、という状況をきちんと考えていかなければいけません。

⑨外出目的別の頻度と場所

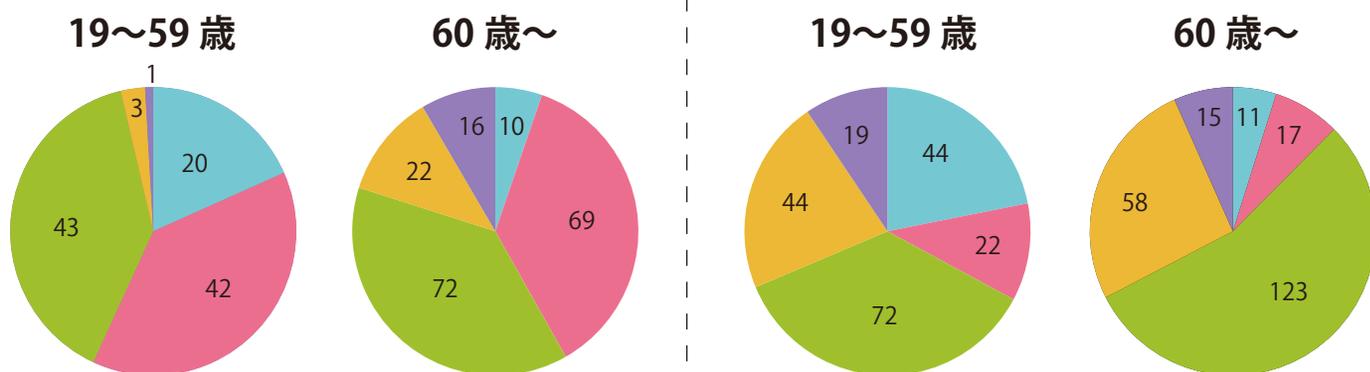
【頻度】



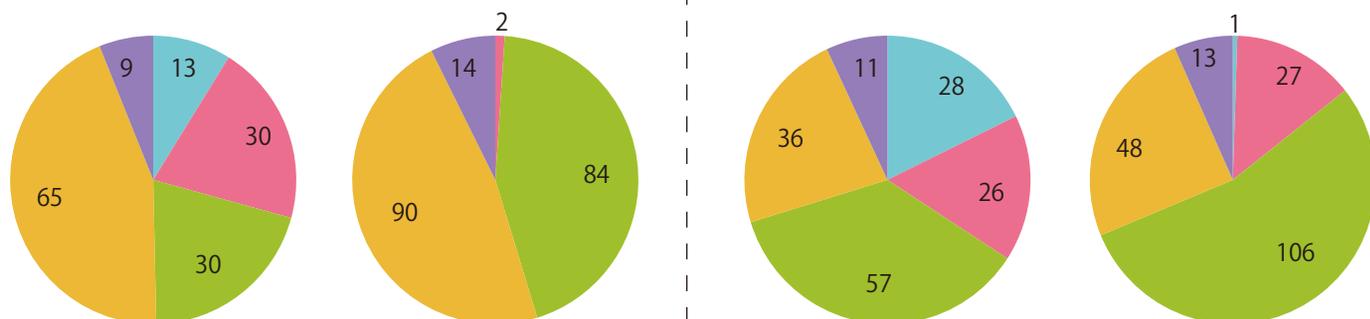
【場所】



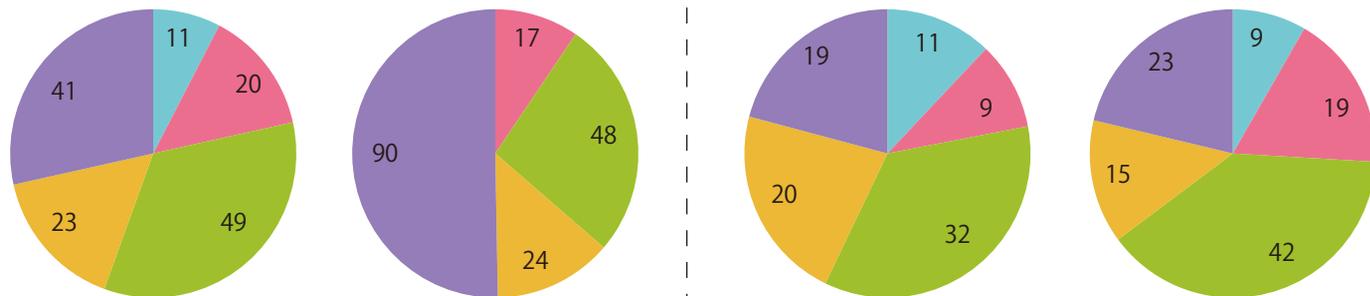
【買い物】



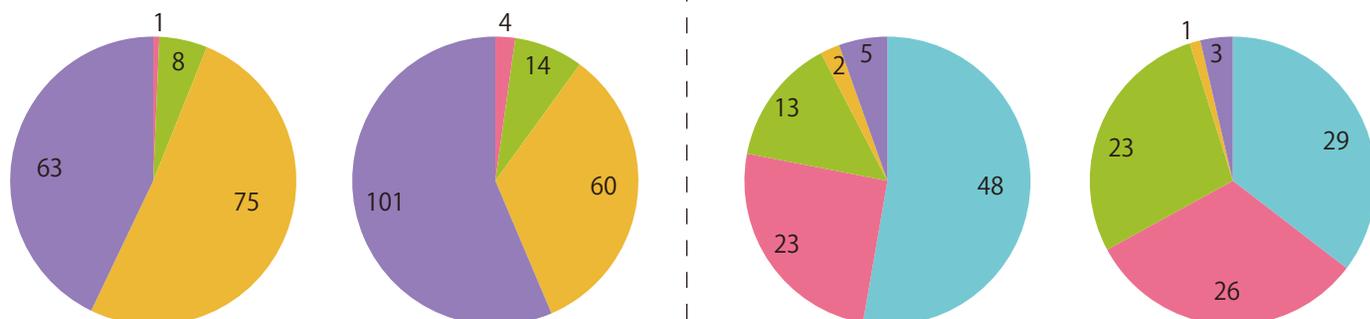
【診療所・病院】



【習い事・趣味】



【地域の集まり】



■ これからの地域を描く ～実験イベント「みんなの家」～

平成26年12月23日(祝)～25日(木)の3日間、平成27年1月6日(火)～8日(木)の3日間、合わせて6日間、山倉地区集落センターにて、「小さな拠点」の実験イベント「山倉・大角みんなの家」を開催しました。様々なプログラムを展開し、誰でも気軽に立ち寄れる、住民同士で顔を合わせる場を生み出すことを目指しました。6日間で延べ200人以上の方にお越しいただき、楽しく実施することができました。住民の方に各プログラムの先生をやってもらったり、移動販売やこども会等、既存の取り組みを組み合わせたたり、山倉・大角を元気にしようとするエネルギーを集結させ、地域にとってより大切な場が生まれればと考えました。こうしたまちの中の「小さな拠点」づくりを目指して、できることからコツコツ継続していきます。

生花アレンジ



飾り付け



クリスマス会



ケーキづくり



書き初め練習会



トートバッグづくり



消しゴムハンコづくり



健康ランチ/カレー



健康ランチ／餃子



健康ランチ／災害食



健康ランチ／焼きそば



健康教室／地域包括支援センター



健康教室／テイクテン!



移動販売



あそび場／グラウンド開放



端材工房



グラウンドゴルフ



追加開催／テイクテン! (2月6日、27日)

